

加工用リーフレタスの生産安定と 産地化に向けた取組を支援

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

当センターと JA グリーン近江、JA 湖東では、水稻育苗ハウス等を利用したリーフレタス栽培を推進し、共同出荷するなど、リーフレタスの産地化を目指しています。令和元年度は、7 経営体が約 4,000 m²で栽培され、11～12 月にかけて約 6,000 kg 出荷されました。

しかし、総出荷量の 6 割に当たる約 3,600 kg が 11 月の半月で出荷され、出荷時期の偏りが課題として残りました。また、一部の経営体で、根腐病等の病害が発生し、目標収量 1,800 kg/10a に対し、約 1,000 kg/10a と減収していました。

そこで、安定的に出荷できる産地育成を目的に、出荷時期の偏りの解消と収量が低い経営体の収量向上の支援を行いました。

【普及活動の内容】

活動は大きく分けて 3 つです。1 つ目は出荷時期の調整で、出荷先の要望に応じた時期に出荷できるよう実需を交え、生産者とともに検討しました。2 つ目は病害対策です。根腐病等の対策は、収量が低かった経営体で対策がされるよう土壤消毒法の研修会を開催し、実施につなげました（写真 1）。3 つ目は定期的な現地支援と研修会の開催です（写真 2）。また、今後の面積拡大に向け、露地栽培の取り組みも提案し栽培支援しました。



写真 1 土壤消毒研修会



写真 2 現地研修会

【普及活動の成果】

出荷時期は、生産者の中で作期分散の必要性が理解され、計画的には種・定植が行われたことにより、出荷が 11 月に集中することなく、需要の高い 12 月下旬まで安定して出荷できました。昨年収量が低かった経営体では、土壤消毒を実施され、根腐病等の発生もなく収量は 1,370 kg/10a まで向上しました。

露地栽培については、品質に問題がなかったことから、次年度以降の面積拡大や作期分散の取り組みとして推進します。

◎対象者の意見

今年の栽培では、土壤消毒が実施でき、連作障害の不安を少し取り除くことができました。結果的に昨年よりも収量が向上してよかったです（K 法人）。